

平成 26 年事業報告

1. 法人業務

1.1 会議開催

常務理事会 4/19 航空会館、理事会 5/17、航空会館、総会 6/15 日比谷図書文化館

1.2 事務局システム

J S A の決済方法として PayPal を導入し、平成 27 年 1 月から使えるようにしました。

2. 統括・普及事業

2.1 滑空統計調査 甲賀常務理事

平成 26 年は 34 団体から回答、前年 42 団体より回答数が減少し、飛行実績も 5 万 5 千回から 4 万 9 千回に減少。今年から IGC Country Development Project に報告。
平成 27 年度からは我が国滑空界の規模確認から構造調査に進みます。

2.2 クラブ・ミーティング 日口理事 現段階で J S A 事業では無いが、記載します。

日本の滑空界の将来像（中長期計画）策定のため、あえて J S A を離れ、日口理事が中心となり、日本滑空界の代表的有志 13 団体で検討を行っております。11/29-30 大野に 23 名が集まって第 1 回会合を開催。来る 6/20-21 長野で第 2 回を開催準備中。課題解決はだれかに任せるのではなく、全員が担当しなければならないとのコンセンサスのもと、課題のリストアップ中。

2.3 F A I 関係

2.3.1 委員

CIMP（医事委員会）Vice President： 嶋田和人（J S A 推薦）

IGC（滑空委員会）：Delegate 甲賀常務理事、Alternate Delegate 丸山理事

2.3.2 I G C 総会

2/27-28 スイスローザンヌの Hotel Movenpic で開催。33 か国から Delegate が集まり、IGC 事業報告、Sporting Code Section 3 改訂論議、将来開催競技会決定、滑空関係各賞・役員選任など議事を行い、甲賀および丸山が出席。

議事だけでなく各国 Delegate や関係者との情報交換が有用。今回は On Line Contest 主宰者 Mr. Reiner Rose に会い、日本で OLC を普及するため、日本の記録を抽出して表示すること、日本語表示を行うことについて便宜は図っていただき、丸山理事が OLC Staff と調整を行い実現しました。

2.3.3 F A I 総会・受賞

10/17-18 タイ パタヤで開催された FAI 総会 Paul Tissandier Diploma 受賞式に吉田常務理事が受賞者として出席。FAI Sporting Medal は市川展氏が受賞。

2.4 国内航空スポーツ団体との交流

2.4.1 航空スポーツ連絡会 吉田常務理事 甲賀常務理事

3/19 於航空会館 FAI National Aerosport Control である（一財）日本航空協会主催、傘下航空スポーツ諸団体と航空局との連絡会議。各団体と情報交換。

2.4.2 スカイ・スポーツ・フェスタ 2014 実行委員長井上理事、吉田常務理事、甲賀常務理事

10/12（日）妻沼滑空場でイベント実施。熱気球、模型飛行機、ハング・パラ、マイクロライト、グライダーが地上展示、体験飛行（のべ 360 名）、デモ飛行などを行い、6000 名が来訪。当日 18:00 および 21:00 の NHK ニュースで放映されました。

国土交通省、経産省、文科省などが実施している航空機操縦士養成連絡会議傘下の裾野拡大ワーキンググループで委員である吉田常務理事からSSF2014が操縦士不足解消対策としての航空思想普及活動成果として発表されました。

本件JSA事業とは別に、参加団体：模型航空機連盟、(公社) ハング・パラグライディング連盟、NPOマイクロライト航空連盟、(公財) 日本学生航空連盟、および当協会で行った委員会を作り、別予算で実施しました。

2.5 空域連絡会 吉田常務理事 甲賀常務理事出席

関東西部地区空域連絡会 7/9 航空自衛隊入間基地、
関東東部地区空域連絡会 12/2 海上自衛隊下総基地

2.6 広報活動 坂井常務理事

ホームページ運営、機関紙“JSA Info”年3回3月、7月、11月各800部発行。

2.7 その他

当協会から航空界委員に就任している会員

学科試験問題検討会委員(技能試験筆記問題)：小野淳

航空医学委員会委員(航空身体検査)：甲賀常務理事

3 育成事業

3.1 指定養成事業

3.1.1 関係者

設置者：佐藤会長、管理者：鈴木常務理事、監査人：谷口監事、事務局：玉中宏明
主席学科教官：中村則之、主席実技教官：井手尾雅彦、
技能審査員：本田正明、玉中宏明、小池貴之
訓練所長：板倉：吉田正、宝珠花：折原正規、長野：万場康雄、山梨：細川隆司、
静岡：島田俊輔、中航連：吉田茂、 関宿：中村則之

3.1.2 訓練所運営

1期(関宿2名入所・修了)、2期(宝珠花2名入所・修了)、3期(板倉1名入所・修了)、
4期(宝珠花4名入所・修了)、合計9名入所・修了、前年度の合計6期12名入所・修了に比較してやや低調です。

3.2 講習会開催 甲賀常務理事

特定操縦技能審査制度が本格実施されたことなどの他の状況変化に対応して講習会のやり方を変更。つまり、講習会はテーマと講師を用意し、航空安全講習会として、あるいは単なる講習会として、いずれでも聴講可能としました。ただしテーマによっては航空安全講習会となり得ない場合もありました。

講習会すべてを独立行政法人日本スポーツ振興センターのスポーツくじ助成金事業として実施し、助成金をいただきました。

航空安全講習会は航空局指導で年間数回開催さえる(公社)日本航空機操縦士協会、(一社)日本飛行連盟、(NPO)AOPA-JAPAN、(NPO)全日本ヘリコプター協議会、(公社)日本滑空協会 5社で運営する技量維持連絡会(JSA委員：甲賀常務理事)により企画実施されます。

3.2.1 航空安全講習会

1/8 富士川 吉田徹 島田俊輔
12/6 大阪心斎橋 吉田徹、櫻井玲子
12/20 山梨韮崎 鈴木重輝、櫻井玲子
1/10 名古屋 鈴木重輝、吉田茂

3.2.2 滑空スポーツ講習会

12/13 東京新橋 丸山理事 WGC2014 報告

1/24 東京新橋 甲賀常務理事 F A I 公式立会人・日本滑空記章試験員講習会

3/7 北海道旭川 櫻井玲子 世界五大陸でのグライダー空紀行

3.3 日本滑空記章制度 事務局 吉田理事

3.3.1 平成 26 年度記章登録

A 章 : 96 B 章 : 89 C 章 : 72 銅章 : 44 銀章 10 金章 4

3.3.2 日本滑空記章試験員 事務局

平成 26 年末で任期更改となり、70 名を申請により任命。昨年度の講習会会場を利用して各地で任命時講習会を実施。任期は 3 年。

4. 競技会支援事業 事務局

下記競技会を名義後援し。競技会開会式・閉会式には当協会役員が出席、表彰しました。

4.1 日本滑空協会賞 賞状および個人のみ副賞 (メダル)

第 47 回全日本高等学校滑空選手権大会 7/25~7/27 於妻沼滑空場

1 部個人優勝 : 馬場巧 (日本航空学園山梨) 2 部個人優勝 : 山路優輝 (慶應義塾校)

第 17 回全日本学生グライダー新人競技大会 10/10~10/15 於木曾川滑空場

団体優勝 : 法政大学 個人優勝 : 山崎慶太 (京都大学)

第 17 回東京六大学対抗 9/7~9/14 於妻沼滑空場

団体優勝 : 慶應義塾大学 最優秀選手 : 栗野翔太 (慶應義塾大学)

第 55 回全日本学生グライダー競技選手権大会 3/1~3/8 於妻沼滑空場

団体優勝 : 慶應 D i s c u s 最優秀選手 : 栗野翔太 (慶應義塾大学)

第 44 回早慶対抗グライダー競技会 3/10~3/16 於妻沼滑空場

団体優勝 : 早稲田大学 最優秀選手 : 太田薫 (早稲田大学)

4.2 滑空奨励賞 賞状

第 32 回久住山岳滑翔大会 4/30~5/5 於久住滑空場

最優秀選手 : 加藤七海 (関西大学)

第 10 回おおのローズカップ 5/4~5/6 於大野滑空場

団体優勝 : ダブル・デイト 個人優勝 : 堀雄一

第 18 回「原田覚一郎杯グライダー競技大会 8/9~8/17 於妻沼滑空場

団体優勝 : 青山学院大学 A チーム 最優秀選手 : 長田一槻 (青山学院大学)

第 54 回全国七大学総合体育大会航空の部 2/18~2/24 於関宿滑空場

団体優勝 : 東京大学 最優秀選手 : 柴田翔 (東京大学)

4.3 海外競技会支援

#33WGC 4/27~5/4 於 Leszno (Poland)

15m クラス : 市川展 6/46

18m クラス : 丸山毅 31/46

#33WGC 6/22~7/6 於 Rayscala (Finland)

Std. クラス : 市川展 15/42

以上